

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第30号
2011年6月13日

11

震災から3カ月の節目 第10陣が出発 派遣延べ人数は約18,400人に

東日本大震災の発生からちょうど3カ月となった11日、連合救援ボランティア隊の第10陣(6/11-18)が東京を出発しました。今回の派遣人数は334名と、ゴールデンウィークと重なった第5陣(336名)に次ぐ規模となっています。参加者はさっそく、各地で民家の片づけ、側溝清掃、避難所での炊き出し、ボランティアセンターでの支援物資配布、ボランティア器材貸し出し作業などに取り組んでいます。

3月31日のボランティア派遣開始から2カ月半が経過し、この間の派遣人数は2,960名、延べ人数では18,417名(人数×活動日数)を数えています。

【内訳】

岩手県 1,079名(延べ6,330名)

宮城県 895名(// 5,687名)

福島県 986名(// 6,400名)

※いずれも6/13現在



参加者の声 ～岩手・住田拠点から～

第9陣(2011.6.3～6.10)は、住田ボランティアセンター(五葉地区公民館)を拠点に大船渡市を中心に活動しました。大船渡社会福祉協議会の依頼を受け、連合だけでなく、他の団体や個人ボランティアのみなさんと一緒に個人宅の片付けや側溝・被災自動車のナンバープレート外しなどを行いました。

活動は真夏日になるほどの暑さのなか、全員が真っ黒になりながらの作業でした。水分補給や休憩を小まめにとりながら熱射病等に注意しながら行いました。ナンバープレート外しでは多くの被災者と会話ができ、すこしでも被災者の心情に寄り添えたのではと思います。

今次派遣団では、陸前高田・釜石・大槌町を視察する機会がありました。活動していた大船渡市とは被害状況も大きく異なり、大槌町では火災の爪痕をじかに見ることができました。また気仙地区協議会事務局長の吉野さんのお話を聞くことができ、被災者の生の声、報道では報じられていない声を聞くことができ、ことばにならない感情がこみあげ、これから私たちが伝えなければならないことを学びました。このボランティアを通じて、参加者それぞれが多くのことを学び、経験し、考えたことと思います。参加者一人ひとりが大きな『おみやげ』を持ち帰ります。被災者と直接関わり、復興のすこしでもチカラになれたことを本当にうれしく思った活動でした。

《日本教職員組合 丸橋 健一さん》



■この集積所に集められた被災車両は約3,000台。ここから廃車手続きをする車を探し、ナンバープレートを外す。

◎連合ボランティア隊に感謝の言葉◎

ボランティアセンター・ブログで紹介 ～宮城・亶理町～

宮城県亶理町・災害ボランティアセンターのブログに、連合ボランティア隊に関する記事が掲載されています。宮城チームの第9陣は亶理町内で側溝清掃や寺での清掃活動を続け、続く第10陣は現在多賀城市内で活動を展開中です。

ブログには、第9陣の亶理町内での活動内容とともに、「本当に懸命に活動していただき、助かりました」と感謝の言葉も記されています。

◆ブログへのアクセスはこちらから

http://msv3151.c-bosai.jp/index.php?module=blog&eid=18357&blk_id=



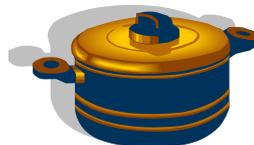
★新聞で紹介されました 連合ボランティア隊を支える 「古里の味」～岩手・東和～

6月9日付の岩手日日新聞に、連合ボランティア隊に毎週食事を提供して頂いている地元女性団体の活動に関する記事が掲載されました。

記事では、東和町自治会女性部など町内4団体のみなさんが、ボランティア隊への「コンビニ食（農作業中の間食、おやつの意味）」として、毎週日曜に交代でまんじゅうや団子、カレーパンなどを提供してきたと紹介。

4月上旬から続いてきた一連の支援活動が6月いっぱいまで一区切りをつけるとのこと。記事には、この間の活動に対する連合岩手の感謝コメントも掲載されています。

おいしい食事で活動を支えて下さったみなさん、ありがとうございました！



写真で見る各地の活動



■気仙沼・本吉ボランティアセンターには全国から参加したボランティアが残した寄せ書きがある。連合のボランティア隊も復興を祈りメッセージを残す。(10日)



■寺から背丈の数倍ある竹を運び出す(10日・気仙沼)



■家屋での土砂・がれき撤去作業の様子。いたるところ砂・砂・砂(13日・いわき)



■一人で土のう詰め作業ができる、通称“土のうマシン”が活躍中。実は一斗缶の上下面を取り去った四角い筒。(13日・いわき)



■回収された写真を洗浄する。写真を傷めず津波の泥を落とすため、慎重さが求められる。きれいになった写真は掲示され、持ち主を待つ。(14日・相馬)



■仮設住宅の被災者に届けるコメの小分け作業。9リットルずつ計量して袋に詰める。(12日・郡山)

救援ボランティア 8月の活動枠組みを確認

中央執行委員会 当面の取り組み(その2)を確認

連合は、16日に開催した中央執行委員会で、救援ボランティア活動の7～8月の活動の枠組みを確認しました。そのポイントは以下の通りです。

各構成組織・地方連合会には、派遣地域変更等の対応をお願いすることがあると思いますが、引き続きのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。現地情勢の変化によって、活動内容に変更などが生じる場合は、構成組織担当者会議などの場で随時協議・調整をしていきます。

なお、9月の取り組みについては、今後の中央執行委員会で確認の予定です。

6月末

○現在3県9ヶ所に設置している拠点のうち、6月末をもって福島・会津拠点を終了、いわき拠点の派遣規模を縮小し、それぞれに派遣している組織は岩手・住田拠点への派遣となる。

7月

○岩手・住田拠点については7/17～7/22の第15陣終了をもって新拠点へ移転。

○宮城・千厩拠点については、7/24～7/29の第16陣終了をもって新拠点へ移転。

(移転先はいずれも調整中)

○現在被災県の地方連合会と連合本部が担っている各拠点運営・ボラセンとの調整作業について、連合全体の災害救援活動への対応力強化をはかるため、他の地方連合会からも派遣を行う。

8月

○夏休み時期に入り一般ボランティアが多く活動に参加する見込みにあること、ボランティアセンターの活動強化が求められていること、仮設住宅への移動が進みつつあることを踏まえた対応を検討。

○福島については、8月の活動はいったん休止。

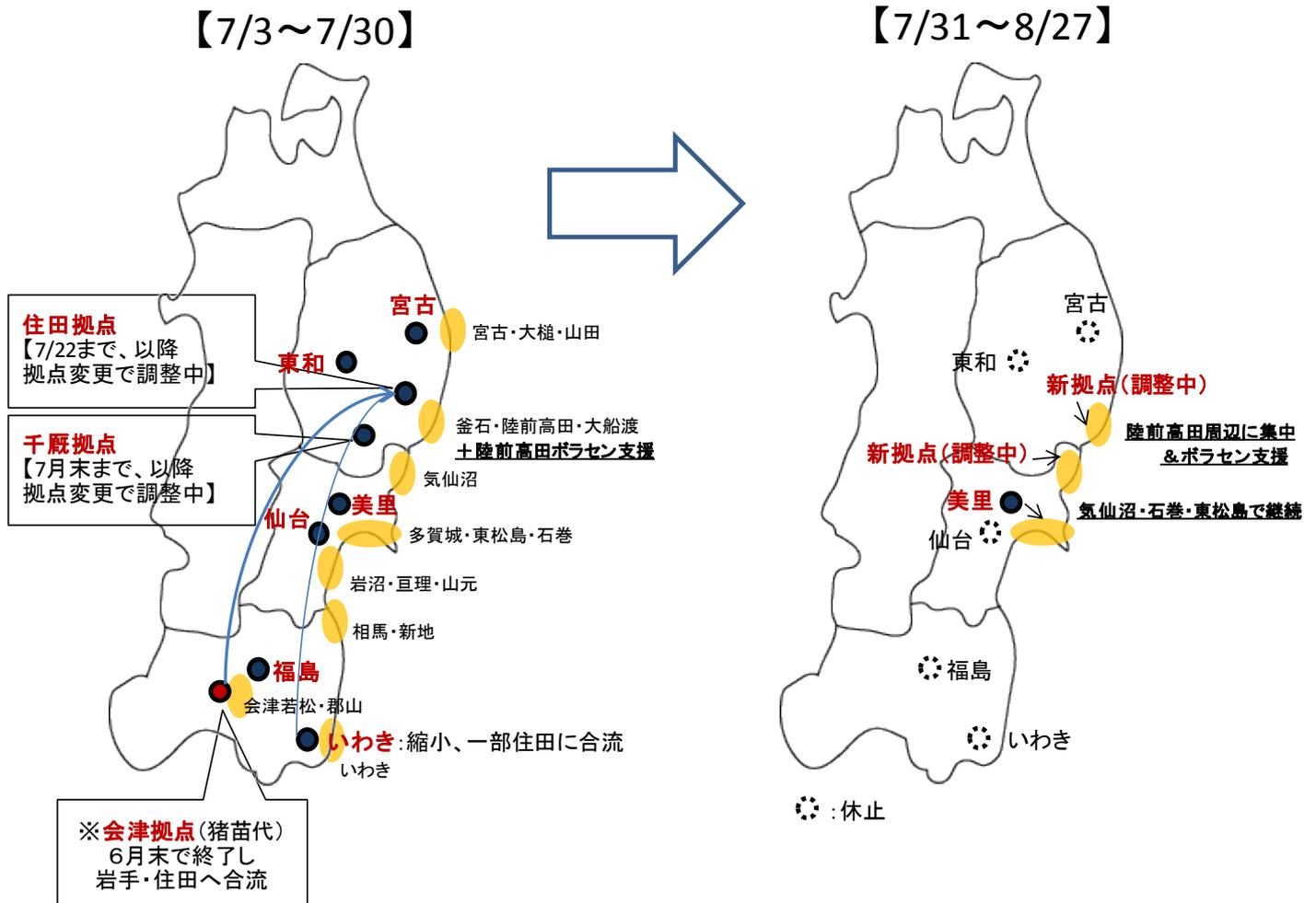
○岩手については、陸前高田周辺地域での救援活動に集中するとともに、陸前高田ボラセン運営の主力を担うべく人員を派遣する。

○宮城については、気仙沼、石巻、東松島地域で活動を継続する。

○他地域でのボラセン運営支援、仮設住宅での生活支援などについて引き続き検討し、必要な対応が明らかになった時点で調整をはかることとしています。



■ 7～8月の活動枠組み（イメージ） ■



つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 33 号
2011 年 6 月 20 日

| 1

ボランティア派遣 延べ2万人を超える

◆実人員も 3,000 人超に

19日、連合救援ボランティアの第11陣328名が東京を出発しました。これによって、第1陣からの派遣者数は3,292名となりました。また、これまでの延べ参加人数（派遣者数×活動日数）も、2万人を超え、20,108人になりました。この日の出発式では、岩手チーム・勝又寛記さん（情報労連）、宮城チーム・松本喜成さん（JAM）、福島チーム・新井昌禎さん（電力総連）が、それぞれ決意表明を行いました。このうち、岩手チーム出発式で決意を述べた勝又さんは、「関係各位の尽力により、これまで多くの仲間が活動に参加することができました。私たちもこれに続き、被災地救援はもとより、被災者の皆さんの元気につながるような活動をし、元気に戻ってきたい」と力を込めました。



■第11陣出発式（宮城チーム）の様子

＝祭り参加で地域・被災者と交流＝

第10陣・会津拠点のメンバーは、活動最終日となった18日、地元・猪苗代町で開催された「温泉祭り」に全員で参加し、地域住民や避難者の方々との交流を深めました。

猪苗代町・中ノ沢地区では、毎年「中ノ沢・沼尻・横向温泉祭り」を開催していますが、今年は、浪江町、飯館村から受け入れている避難者の方々が仮設住宅へ移転することから、日程を1カ月早めて開催されました。

この日は、第10陣解団式の後、慰労会が開かれる予定でしたが、祭りの開催を知った第10陣のメンバーは、ボランティア隊としても祭りを盛り上げ、避難者を激励しようと班長会議で参加を決定しました。

メンバーは、午後7時に中ノ沢地区の温泉広場ではじまった「温泉踊り」に参加。はじめは周りで眺めていた第10陣のメンバーも、徐々に踊りの輪に参加。「会津磐梯山」などのお囃子に合わせ、見よう見まねで体を動かしているうちにすっかり踊りを習得。浴衣姿の人々と一緒に、被災者の新しい生活のスタートにエールを送りました。



◆福島・会津拠点◆



■温泉祭りで踊りの輪に加わる連合ボランティア

活動レポート

福島

●会津拠点

【6/16～18】郡山市、会津若松市で活動。郡山市及びその周辺の避難所での炊き出し、連合福島に寄贈された飲料水の搬入、野菜カット、被災者の引越し手伝い。会津若松班は、支援物資センターでの物資の配布・搬入・整理。18日には、仮設住宅100に米を配りながら、各戸の生活状況やニーズ聴取を行う。



■連合ボランティアも参加して行われた飲料水の受け渡し式

●福島・会津拠点 ボランティア隊 合同

【6/16】連合福島が中国領事館(新潟)から寄贈を受けた飲料水1600箱(1箱700ml24本入り)を、NPOハートネットふくしまの活動拠点に搬入するため、同所に貯蔵してあった米を別の倉庫に移動した上で、福島拠点・新地班とともに飲料水の搬入作業。2時間かけて手渡して1,600箱を移動させるハードな作業。



■福島・会津両地チームが協力して運搬作業に着手。リレー方式で2時間集中して、1600箱の移動を完了させた。

●福島拠点

【6/16～18】相馬、南相馬、新地の各地で個人宅、田んぼなどでの清掃、片づけ作業を実施。

●いわき拠点

【6/16～18】いわきボランティアセンターでの資材管理業務、平豊間地区、久之浜町での住宅での土砂撤去、側溝からの土砂上げ作業などを実施。

宮城

●仙台拠点

【6/16】名取市小塚原字西中塚のカーネーション栽培農家のガラス温室2棟の泥出し

【6/18】石巻市内で、アパートでの浴室清掃、通路からの泥出し。



■カーネーション農家での作業。
左：泥出し、清掃作業中
右：作業後、整頓された温室

●美里拠点

【6/14】石巻市内で、仮設住宅に使用する住宅の床板はがし・泥出し作業を実施。

現地から今回作業した家屋は、津波で屋内はめっちゃめっちゃになったが、建物自体は仮設住宅向けに改装されるとのこと。日が差すととにかく暑くなるので、暑さ対策が必須です。今回は水の確保で苦労する中、石巻地区のJAMの皆さんのご厚意により高圧洗浄機と給水車を用意していただきました。機材の洗浄が大変はかどりました。



■泥出し作業の後、仮設住宅用として改装される予定(石巻)

水害を未然に防ぐ ボランティア活動



気象庁は 21 日、東北地方全域の梅雨入りを宣言しました。すでに東北地方の被災地では、温帯低気圧による大雨の影響を受けており、今後梅雨が本格化するにつれて、豪雨による 2 次被害が心配されます。

こうした中、岩手・宮古拠点から、連合救援ボランティア隊の活動によって洪水被害を回避することができたという、うれしいニュースが入ってきています。すでにこのレポートでもご紹介している通り、岩手に限らず宮城、福島でも、連合のボランティア隊による側溝からの泥出し作業が精力的に行われています。梅雨の本格化を前にこうした取り組みを進めることの重要性が改めてわかります。以下、現地からのレポートです。

◆宮古市大通地区は古くからの商店街。宮古駅から程近い場所にあります。

3 月 11 日、この地区を襲った 1m50cm の津波で商店街は大きな被害を受け、6 月になっても営業を再開していない店舗が多くあります。

宮古市社会福祉協議会の依頼で、連合ボランティアが大通地区の側溝の泥出しを行ったのは 5 月下旬。4 日間の作業で側溝の泥は一掃されました。

台風 2 号から変わった温帯低気圧の影響で大雨となった 5 月 30 日は、宮古市のボランティア活動も中止を余儀なくされました。津波の影響で側溝に泥が溜まっていることから、側溝があふれて水害を引き起こすことが懸念されましたが、大通地区においては、連合ボランティアによる作業の甲斐もあって、側溝の水はけもよく、特段の被害はなかったということです。

宮古市におけるボランティアでは、個人宅の泥出しがひと段落し、地域の側溝の泥出しを依頼されることが多くなっています。個人宅での作業や避難所での被災者とのふれあいというイメージを持って現地入りする参加者の中には、連日に亘る側溝の泥出しにとまどう向きも散見されるようです。

しかし、これから梅雨を迎えるに当たって、側溝の水はけを良くしておくことは、水害を未然に防ぐことにつながり、宮古市にとっても喫緊の課題です。連合ボランティアの日々の地道な活動は、確実に地域の復興に向けた一助となっています。



■連合ボランティア隊が活動した宮古市大通地区。側溝周辺もきれいになっている。

◆これから参加されるみなさんへ◆

梅雨が本格化するにつれて、活動上の注意点も増えてきます。安全に活動するため、以下に留意してください。

- ☔ 津波のヘドロは雨で水分を含むと滑りやすくなります。転倒に注意。ヘルメット着用を！
- ☔ 湿度や気温の上昇で熱中症・食中毒のリスクが高まります。食事の際には手洗い・手拭き、作業中の水分補給に心がけましょう。
- ☔ 雨天時には、ボランティアセンターが作業中止を決定することがあります。「せっかく現地に来た以上、雨でも頑張りたい」という思いは理解できますが、安全確保のため、現地の指示に従ってください。「待機・休息も活動のうち」です。

活動レポート

各地の活動報告からピックアップしてお伝えしています。今回は、第11陣の活動初日の状況をお知らせします。

福島

●福島拠点

【6/20】相馬班、南相馬班、新地班の3班に分かれて活動。民家敷地内や側溝にたまった、津波による土砂の撤去などを実施。

●会津拠点

【6/20】郡山、会津若松で活動。郡山では周辺地域の避難所での炊き出し、仕込み作業（野菜カットなど）、会津若松では、支援物資センターで水、米、お菓子などの物資運搬、仕分け作業を実施。

宮城

●千厩拠点

【6/20】気仙沼市内で、3グループに分かれ、住宅でのヘドロのかき出し・清掃、家財の運搬、タンスの解体作業などを実施。

現地から 現場はボランティアもつい最近まで入れなかった区域で、津波で流された漂流物が多く残されており、作業はかなり大変でした。床下からのヘドロのかき出しは、釘が壁の側面、床から多数出ているので注意が必要、安全靴は必須です。連合気仙沼地協や地元 JAM の方々が作業場所や拠点での活動をサポートして頂き、大変助かっています。

●美里拠点

【6/20】石巻市伊原津地区で、約2メートルの津波が押し寄せ1階が天井まで浸水した病院（2階建て）の床やトイレのヘドロ出し・がれき撤去、窓枠の清掃などを実施。

現地から この地区は、石巻漁港の北約1キロメートルにあります。「地震で地盤が沈下して満潮の度に浸水する」と報道されている渡波地区からほど近い場所にありますが、この地区は幸い満潮でも浸水していません。それでも、被災当初は津波で石巻漁港から流出した魚が大量かつ長期にわたって散乱・堆積し、ひどい悪臭を放っていました。そのため、5月連休明け頃までボランティアが入れなかった場所です。

この日現場となった病院は、撤去作業が全く進まないため、病院からの悪臭に悩まされ続けていた地元町内会の強い要請を受けた石巻市が、NPOに依頼して作業をしている場所です。

この日も、数名のボランティアが作業をしていました。悪臭は未だに残っていますが、既に建物内の魚や泥などは概ね撤去されており、取り残されていた階段下の小部屋やトイレ、屋外通路、窓での作業となりました。夏日で湿度が高く、じっとしていても汗が滴り落ちる環境の中、建物周囲のヘドロの山から湧いていると思われる大量の大きなハエ（殺虫剤を噴霧してもほとんど効かない！）に悩まされながらの作業となりました。

作業中に写真や預金通帳、病院職員の身分証（本人の安否は不明）が発見され、それらはまとめてボランティアセンターに渡すことにしました。



■(写真上)病院のトイレ内壁を清掃中。
(写真下)病院の屋外通路も片づける。

「無料復興支援ライブ」運営をサポート

すでに報道でも紹介されていますが、震災から 100 日目となった 19 日、宮古市で「FUNKEY MONKEY BABYS」による無料の復興応援ライブが開催され、約 2,000 人の観客で盛り上がりを見せました。実は、市内の河川敷で開催されたこのライブの裏方として、ボランティアセンターの要請を受けた連合のボランティア隊も参加していました。当日は、来場者対応や場内整理を行いました。いつもとは少し形の違う活動でしたが、皆さんに元気を届けることに関わる 1 日となりました。

【「FUNKEY MONKEY BABYS」公式ブログ】

当日の様子を見ることができます。(ボランティア隊も映っています)

<http://ameblo.jp/fmb-blog/entry11-10927660865.html>

(PC の CTRL キーを押しながらクリック)



■(写真左) ステージ前で観客の整理をするボランティア隊。もちろん「連合・災害救援」の帽子をかぶっています。(写真右) 来場者へのグッズ配布もサポート。



活動レポート

宮 城

●千厩拠点

【6/21】気仙沼市内で、2グループに分かれ、住宅でのヘドロ出し・側溝清掃、家財の運搬、床洗浄などを実施。

●美里拠点

【6/21】昨日に引き続き、石巻市伊原津地区の病院で、ヘドロ出し・がれき撤去、周囲の竹やぶ伐採などを実施。

ヒヤリ・ハット 竹の伐採中、竹の上に引っ掛かっていた流木が落下したが、ヘルメット着用のおかげで事なきを得ました。暑くてもヘルメットの着用は重要です(頭部の冷却グッズは拠点にあります)。また、切創・眼の突き刺し防止のため、ゴーグルの着用と竹の切り方(斜めに切らない)に注意することを徹底しています。

福 島

●福島拠点

【6/21】相馬市の旧相馬女子高での回収写真の洗浄作業、南相馬、新地では側溝の泥出しなどを実施。

●会津拠点

【6/21】郡山市周辺での炊き出し、仮設住宅への食品配給、会津若松支援物資センターでの物資配給を実施。

つながる、 ささえる、 680万

連合救援ボランティアレポート

第 36 号
2011 年 6 月 23 日

1

保険証 活動時にも忘れずに！



現地での作業中にケガや病気で医療機関を受診する際に、保険証を持って来ていない、あるいは拠点に置いたまま作業現場に行ったために、手続きに時間がかかるケースが見られます。すでに「てびき」などでご案内していますが、各組織におかれては、ボランティア参加にあたっては保険証を忘れないよう周知徹底をお願いします。



連合ボランティアがTVニュースに登場

－活動中の暑さ対策が紹介される－

22日、前日に梅雨入りしたばかりの東北地方は、一転して各地で30℃以上の真夏日を記録しました。

こうしたなか、同日に放映されたテレビ東京系列のニュース番組で仙台拠点ボランティア隊の暑さ対策が紹介されました。土砂撤去作業の様子とともに、休憩や水分補給を増やして作業していることが、メンバーのインタビューを交えて報じられました。

ニュースは連合の活動を取り上げるものではありませんでしたが、画面には「連合・災害救援」の帽子やワッペンが何度も大写しに。思わぬ形でしたが、必要な対策をとりながら活動する連合の取り組み紹介となりました。



■ニュース映像
(テレビ東京 HP より)

活動レポート

岩手

●宮古拠点

【6/22】宮古市内の民家での泥出し、津軽石地区での側溝清掃、避難所の風呂・トイレ清掃を実施。

現地から 約1週間かけて行われた津軽石地区での側溝作業はこの日で一段落。連合の活動は地域でも知られ、地元の方々から感謝の言葉を何度も頂きました。



■写真左：出発前、社協でラジオ体操
写真右：津軽石地区での側溝清掃
(22日・宮古)

●住田拠点

【6/21】陸前高田で、断熱材などの廃材の片付け、民家での床板はがし、泥出し、石灰散布、側溝清掃、写真洗浄などを実施。

宮 城

●仙台拠点

【6/22】 仙台市若林区で、側溝での泥、草木の撤去作業を実施。

現地から 側溝には油が多く溜まっていて、作業に苦労しました。詰めた土のうは約 1,000 袋になりました。班長会議で各班が作業するにあたっての工夫事例を出し合い、全体で共有することにより、作業効率は日々上がっています。

●千厩拠点

【6/22】 気仙沼魚市場で、魚などを入れるケースの洗浄作業を実施。

現地から 今日の作業は、たくさん洗えばよいというものではなく、まさに「量より質」。ケースにこびり付いた重油などの汚れをクレンザーを使って力いっぱい擦り、磨き上げ、魚市場の方に仕上がりを見て頂くという作業でした。

●美里拠点

【6/22】 前回と同じ石巻市内の病院で、敷地内の泥出し、建物内清掃などを実施。

現地から 現場ではハエが大量に発生し、殺虫剤がほとんど役に立たない状況（第 34 号参照）ですが、その対策として、連合宮城石巻地協・加藤事務局長が中央に穴をあけたペットボトルに酢、酒、砂糖を入れた「ハエ取り器」を作成。次々とハエが容器に集まり、効果を発揮しています。



■写真左：ナースステーションの時計は津波襲来時刻で止まっている。この病院では、患者・職員あわせ 20 人以上の方が犠牲になった。
写真中：非常階段に堆積した泥を取り除く。ここでも身長を超える高さの津波の跡が見える。
写真右：急遽作成した「ハエ取り器」には、あっという間にたくさんのハエが集まる。(22日・石巻)

福 島

●福島拠点

【6/22】 相馬、南相馬、新地の 3 班に分かれて、民家や側溝の泥出し、がれき撤去などを実施。

●会津拠点

【6/22】 郡山、会津若松に分かれて活動。郡山班は仮設住宅 100 戸へのタマネギ、米、水を配給しながら入居者とのコミュニケーション、避難所から仮設住宅への引っ越し支援、支援物資の整理、配給補助などを実施。会津若松班は、支援物資の運搬、整理作業を実施。



■写真左：農道側溝での泥出し作業
写真右：休憩中。強い日差しの中、バスの日陰で涼む(22日・南相馬)

■23日の地震について■

23日午前7時前、岩手県沖を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生し、岩手県や青森県で最大震度5弱を記録する揺れとなり、一時津波注意報が出されました。岩手県内の連合救援ボランティアにケガ等の被害はありません。なお、岩手県の本日のボランティア作業は、雨天のため中止となっています。現地では今日・明日と雨の予報となっていることから、24日も雨天の場合には、拠点内の大掃除や器材の点検などを行うとのことです。

なお、作業中の地震発生に備えて、現地では作業前の退避先確認などを通じて安全確保をはかっています。

第 11 陣が無事帰着 第 12 陣 元気に出発!

6月27日、連合救援ボランティア第12陣301名が、岩手・宮城・福島3県に向けて出発しました。引き続き、宮古、東和、住田、仙台、千厩、美里、福島、会津、いわきのベースキャンプを拠点に、1週間の予定で被災地でのボランティア活動に従事します（なお、会津での活動は今回をもって休止となります）。

連合本部前で行われた各チームの出発式のうち、岩手チームでは、激励あいさつを行った菅家副事務局長が、「被災者の皆さんはまだまだ過酷な生活を強いられている。日本全体が一致して支援することが重要。連合は心で、力でそして行動で被災地の復旧・復興を支えていく。元気で帰ってきてください」とエールを送るとともに、現地での安全な活動を祈念しました。

第12陣の派遣により、派遣者総数（実数）は3,631人（岩手1,360人、宮城1,089人、福島1,182人）となっています。

活動レポート



岩 手

●宮古拠点

【6/24~25】宮古市高浜地区全域で側溝からの泥出し作業、避難所（鍬ヶ崎小学校）の風呂・トイレ掃除、仮設住宅への生活用品の搬入を実施。

現地から 作業には地元の方も参加し、昼にはみそ汁の差し入れを頂き、大変ありがたかったです。

■側溝にフタ上げ作業。専用の器具を使うが、重量があるだけに慎重な作業が必要（24日）



宮 城

●仙台拠点

【6/24~25】仙台市宮城野区内で、側溝からの泥・ガレキ撤去作業を実施。26日は雨天のため中止

現地から 避難者の帰宅も含め交通量のある現場だったため、片側ずつ作業するなど、車の通行に注意しながら作業しました。25日朝には、南雲連合事務局長が拠点を訪問し、活動に出発するメンバーを激励しました。

●美里拠点

【6/24】石巻市伊原津地区で、民家での家財搬出、泥出し、清掃作業を実施。

【6/25】連合山形からの近県対応チーム（28人）と合同で、石巻市貞山地区の側溝からの泥出し、路面清掃を実施。

【6/26】石巻市鹿妻北地区で連合山形からの近県対応チーム（31人）と合同で側溝からの泥出し作業を実施。この日は雨天だったが、ボランティアセンターが団体での活動については決行の判断をしたため、降りしきる雨の中での作業となった。



■地元の方々と一緒に作業（25日）

現地から 側溝のフタは1枚で40kg近くあります。移動の際に指挟みや腰を痛めないよう、慎重な作業が必要です。石巻で活動しているJAMの「石巻を水できれいにし隊」や、自治労宮城県本部役員の方のご厚意により、連日、高圧洗浄機を用意して頂き、器材やカッパ、長靴の洗浄をしていただきました。

「石巻を水できれいにし隊」についてはこちら↓

JAM「災害対策本部」WEBサイト

<http://www.jam-net.info/cgi-bin/jam-saigai/clip/clip.cgi> (Ctrlキーを押しながらクリック)

●千厩拠点

【6/24】気仙沼市内で民家の敷地からの泥出し作業を実施。26日は雨天のため中止。

【6/25】気仙沼市内で畑に堆積したヘドロ、がれきの撤去、津波に浸かった布団や畳などの廃棄、衣装ケースの水抜き、家財運搬などを実施。

福 島

●福島拠点

【6/24】相馬班、南相馬班、新地班に分かれ、民家・側溝からの泥出し作業などを実施。南雲事務局長が拠点を訪問しメンバーを激励。

【6/25】南相馬班、新地は雨天のため作業を中止。相馬班は民家の泥出し作業を実施。

【6/26】相馬班は民家での泥出し作業、南相馬班、新地班は相馬市内の排水機場で泥出し作業を実施。

●会津拠点

【6/24~25】郡山市と周辺の避難所での炊き出し（コンソメスープ、中華スープ、カレー）、仮設住宅への食品配給（水、米、冷凍食品）、仮設住宅での引っ越し支援などを実施。会津若松では支援物資センターでの支援物資配給作業を実施。

【6/26】雨天の為活動中止。被災地視察に切り替え。



■写真左：朝の出発を前にメンバーを激励し、見送る南雲事務局長（写真中央）（24日・福島）

写真中：鍬を持つ手に力が入る。（24日・新地）

写真右：依頼主から感謝の言葉を頂く（24日・新地）

◆◇ボランティア参加者の声を紹介します◆◇

第 11 陣の岩手・宮古拠点で活動した連合救援ボランティア参加者の方から、現地の人々との交流についてご報告を頂きましたのでご紹介します。ボランティアレポートでは引き続き、活動に参加しての感想などを随時ご紹介していますので、下記宛にお寄せ下さい。お待ちしております！



東京から宮古に向かう道すがら、宮古にかなり近づいてからですが、とあるバス停で中学生の一群を見かけました。彼らはかなり遠くから私たちのバスを見つけたようで、何やら隊列を整えて整列し始めました。（何をやるのかなあ・・・）と思って見ていたら、何と私たちに向かって全員手を振ってくれたのです！バスのフロント部分に横断幕があったのでそうしてくれたのか、あるいは学校で「ボランティアのバスを見たらそうしましょう」と指導されているのか定かではありませんが、いずれにせよ有難い気持ちと、「明日から頑張らなければ！」という気持ちと両方を抱いた次第です。

側溝清掃の活動中、とあるお宅の方から声をかけられ「被災した悲しさの涙はもう出なくなった。むしろみなさんのこうした努力が、ただただありがたく、今一番涙が出る」との言葉をいただいたことが印象に残っています。（第 11 陣 情報労連・勝又寛記さんより）

活動レポート

岩手

●宮古拠点

【6/28】宮古市高浜地区での側溝・歩道からの泥出しおよびがれき撤去、鍬ヶ崎小学校の風呂・トイレ清掃を実施。

現地から 炎天下での作業となりましたが、道路両脇にある各約 150m の側溝の泥出し作業をその日のうちに完了できました。



福島

●福島拠点

【6/28】相馬、新地、南相馬の 3 班に分かれて活動。相馬班は排水機場の屋外でのがれき撤去、新地班は民家 5 棟で屋内と周辺のがれき撤去、南相馬班は民家での泥出し作業、河川敷にあるひまわり園でのひまわり移植作業を実施。

現地から 相馬の排水機場での活動は、第 11 陣が 26 日行った作業内容が地元で評価され、再び「連合ボランティアにお願いしたい」との要請があったことがきっかけです。班長会議では、天気予報を踏まえ、水分を多く取るなどの熱中症対策を確認しました。

●いわき拠点

【6/28】いわきボランティアセンターでの資材班業務、永崎地区での側溝清掃を実施。

現地から 側溝の泥出しは総延長 400m。依頼主の方からおでんや冷たい飲み物の差し入れを頂きました。

●会津拠点

【6/28】郡山では炊き出し・食材仕込み、支援物資配布、仮設住宅への引越支援などを実施。会津若松では支援物資センターでの受付、物資配布、仕分け作業を実施。

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 39 号
2011 年 6 月 30 日

| 1

救援ボランティア開始3カ月 派遣規模延べ2万4千人に

連合救援ボランティアは、3月31日の第1陣派遣開始から3カ月を迎えました。6月30日時点での派遣規模は、実数で3,631人、延べ活動日数（派遣人数×活動日数）ベースで23,326人を数えます。

開始当初3県5ヶ所だった拠点も現在は9拠点となり、4月上旬の強い余震による一時的な活動休止はあったものの、毎回コンスタントに300名規模の派遣を継続し、第12陣が活動を終える7月2日には約2万4千人となる見通しです。3ヶ月間で延べ25,000人を派遣する当初の想定に概ね到達する状況になっています。

ボランティア参加者の皆さんの活躍により、被災地からは連合の取り組みに対して多くの感謝と信頼が寄せられています。この間の各構成組織、地方連合会からのご協力を改めて感謝申し上げますとともに、引き続きの復旧・復興支援活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

= 東日本大震災・連合救援ボランティア 派遣者数(6/30時点) =

【派遣者総数】 3,631人（男性 3,396人、女性 235人）

【延べ人数】 23,326人

派遣地域別内訳（延べ人数）

岩手 1,359人（8,196人）

宮城 1,090人（7,214人）

福島 1,182人（7,916人）

活動レポート

岩手

●宮古拠点

【6/29】北保久田地区での側溝からの泥出し、避難所での清掃作業を実施。

現地から 社協や一般参加のボランティアと合同で作業。約350mの作業は、交通量が比較的多く歩道もない道路だったため、自主的に交通整理を行いながら作業しました。炎天下での作業となりましたが、予定より早く完了できました。

宮城

●美里拠点

【6/28】東松島市のJR仙石線陸前小野駅周辺で側溝の泥出し作業を実施。

現地から 付近はボランティアが入り始めてから日が浅く、住宅地の側溝も手つかずという状態。この地区での作業は当面泥出しが中心になると思われます。



福島

●福島拠点

【6/29】相馬、新地、南相馬でそれぞれ活動。民家のがれき撤去（相馬、新地）、側溝の泥出し作業、前日に続き河川敷のひまわり園での作業（南相馬）を実施。

●会津拠点

【6/29】郡山、会津若松でそれぞれ活動。郡山では避難所 3ヶ所での野菜カット、炊き出し（シチュー）、物資配布、仮設住宅の引越し支援など、会津若松では支援物資センターでの受付業務、物資配布・仕分け作業（コメ 5t 分の運搬、小分け）を実施。

現地から 原発事故で避難している方から、一時帰宅した際の状況を聞くこと「冷蔵庫の内容物が傷んでしまっている」「天井など家屋の傷みが思いのほか進行している」

●いわき拠点

【6/29】いわき市永崎地区にある食品加工工場敷地での泥出しなどを実施。

安全に活動するために =最近の注意点=

作業安全上の注意点については、これまでも「ボランティア活動のてびき」「ボランティアレポート」で都度ご案内していますが、気温が高い時期に入り、熱中症などのリスクが高まっています。ケガや病気を未然に防ぐため、改めて確認をお願いします。

●車両に注意

側溝作業など、路上での活動が増えています。見張り、車両接近時の声かけなど、通過車両に十分注意して作業しましょう。また、敷地内でも、フォークリフトに轢かれそうになったヒヤリ事例があります。十分注意しましょう。

●熱中症対策

気温が 30℃を超える日が増えていきます。熱中症予防のため、こまめな水分補給・休憩、冷却グッズの利用などを心がけましょう。

暑さで集中力が鈍ると、重量物の落下、転倒、踏み抜きなどにつながる危険があります。休憩確保はもちろん、互いに声かけなどで安全確認を行いましょう。



●食中毒対策

弁当・食品・飲物を炎天下に放置せず、クーラーボックスなどに入れましょう。活動場所や拠点での食事前の手洗い・消毒を励行しましょう。活動場所によっては、ハエなど食中毒菌を媒介する虫が増加している地域があります。食べかけの食品や飲物を外に放置しないように気をつけましょう。

